

『のんびり洋書めぐり』



Ehon House

(株)岩崎書店 絵本の家事業部 英語教育担当
館野佐知子

■ 小学校の先生が絵本の家で研修?!

近隣の小学校の先生からお電話があった。夏休み期間中に絵本の家で研修をさせてもらえないか?との問い合わせだ。私は、心の中で「やったー!」と叫ぶ。

中堅の先生方の異業種研修という事で、以前にも2人の先生が来てくださった事がある。英語の絵本について先生方の生の声を聴けるのは私たちにとっても貴重な体験で、当時もはっとするような気づきをたくさん与えていただいた。

先生方も、ふだんあまり手にしない洋書絵本を見ることが出来るのは良い機会だと思ってくださる。小学校で英語が教科化された今、「私たちが選んだ英語の絵本は、子ども達に受け入れてもらえるのか?」、「私たちの作った手引書は本当に授業の役に立つのか?」など、ぜひ知りたい。

こんなチャンスはめったにない。『音源付き絵本：クラ

スで楽しめる英語絵本セット』シリーズについて、ぜひ意見交換しようと、研修の日をワクワクしながら待つことになった。(写真①)

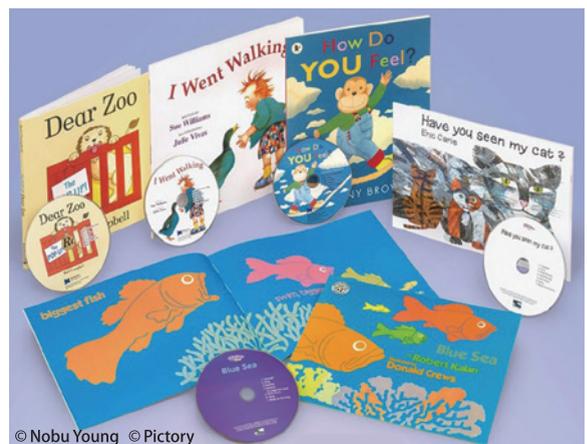
■ 音源CD付：クラスで楽しめる英語絵本セットとは

ここで、『クラスで楽しめる英語絵本セット』について、簡単におさらいしようと思う。絵本の家が、“子ども達の英語学習の第一歩を後押しするような絵本を集めよう!”と作ったのが、『英語の本棚ファーストステップ』というカタログだが、2018年度から継続して掲載しているのが、この『音源付き：クラスで楽しめる英語絵本セット』で、現在4種類ある。(写真②、③、④、⑤)

子どもの英語学習にぴったりの素晴らしい音源CDがついた絵本は、絵本の家が個人向けに提供しているブッククラブ(選書サービス)でも一番の人気である。「これぞまさに英語学習CDブックの決定版です!!」と、キャリアの長いオンラインショップ担当者を感じさせる商品なのだ。



写真①: 2021年版ファーストステップカタログ



写真②: クラスで楽しめる英語絵本セット(初級)



おすすめポイント①: 人気作家、ロングセラー、受賞作品などなど、圧巻のラインアップで評価が高く幅広い絵本の数々。

おすすめポイント②: ネイティブのためではなく、英語学習者向けに工夫された音源付き（物語を歌やチャンツに!）。

おすすめポイント③: 歌ったら言える、言えたら読めるといふ学びの発想で、英語絵本の読み聞かせをより効果的に。

■ 低学年から導入しやすく最も親しみやすい⇒ 『クラスで楽しめる英語絵本セット エリック・カール』

5年生を担当するT先生と2年生を担当するS先生。どちらの先生からも、低学年から導入しやすいセットとして評価されたのは、やはりエリック・カールのセット。絵本としての完成度も高く、馴染みのある作家の作品で英語を学べる利点がある。

“Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?(くまさん くまさん なにみてるの?)”は、“色”+“動物”という組み合わせで進んでいく絵本。やさしい英単語で表現されているため、低学年から使ってもらえそう。ちなみに、色+物、というパターンは、英語学習ではよく出てくる。

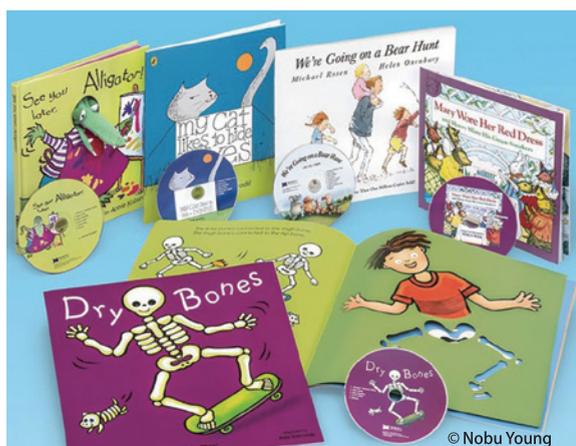
手引書でも触れている“色帯のページ”を使って色当てをするクイズや、CDの歌(Story Song)をまず聞かせみて、「聞き取れた色があったかな?」と質問するのも楽しいのでは、とアイデアをいただいた。先生方は、「子ども達にどう伝えるか」や「子ども達がどう理解する

か」、そして、「子ども達の気づきはどうか」という事を何より大切に考えていた。導入部分でいかに興味を引き付けるか。絵本を丸ごと一冊英語で楽しむ上で重要なポイントで、クイズは子ども達が参加しやすい活動なのだ気づく。

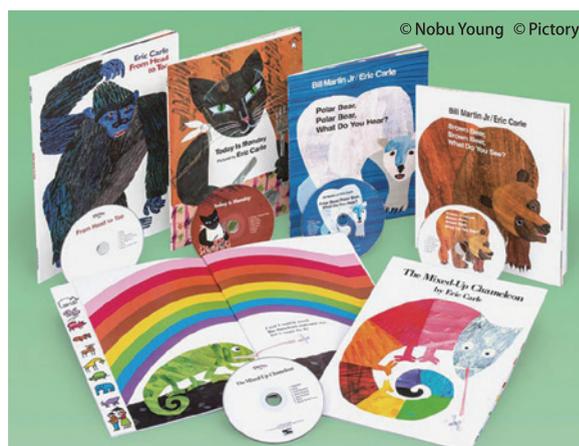
この絵本はテンポが良くてリズムカルな短い文章の繰り返し。CDの歌やチャンツで、子ども達もすぐに覚えて言えるようになるだろうというのが共通のご意見だった。まさに、“歌ったら言える”のコンセプト通り! 作者のビル・マーチン・ジュニアは教育者で出版社の幹部も務めたことがあり、子どもが読むことを学ぶプロセスを熟知した人物。声に出して読むのには最高の文章だ。

“Today is Monday (月曜日はなにたべる?)”では、曜日が繰り返し出てくるので、CDに合わせて歌っているうちに、自然に何度も声に出して練習できる作りになっている。曜日は授業でも頻繁に扱うので、低学年から聞きなれておくと、教科書で英語を学ぶ学年になった時に「知っている!」という安心感につながるかもしれない。

さらに、“From Head to Toe (できるかな?あたまからつまさきまで)”では、子ども達が実際に体を動かしながら、英語の絵本の読み聞かせに参加できるという、絵本作りの達人、エリック・カールならではの工夫に興味をもっていただいた。体の部分の名前と動作を表す単語がたくさん出てくる。動物たちが次々自己紹介する、“I am ~ .”という文章も教科書とマッチしているし、“Can you do it?(できるかな?)” “I can do it. (で



写真③: クラスで楽しめる英語絵本セット (中級)



写真④: クラスで楽しめる英語絵本セット エリック・カール



きるよ)”という英語でのやり取りを絵本を通じて繰り返し体験できるのも魅力という事だ。

■ 小学校では扱わない文法でも、 絵本としての楽しさで広がりのある英語の学びを

『クラスで楽しめる英語絵本セット 初級』は、挿絵が文章以上に内容を表現し、英語力がまだあまりない子ども達でも楽しめるセットである。

それだけに、手軽に楽しめる絵本ばかり!と自信もあったのだが、先生方とお話してみると、短くても文章が過去形で書かれている、小学校では扱わない文法(英語の比較の表現など)を使っているなど、小学生には発展的と感じる絵本もあるという事が分かった。

それでも、「絵本そのものの楽しさと、音源CDの行き届いた工夫で、絵本を使って英語に触れるメリットを感じることが出来る。」「使い方次第で、低学年から高学年までそれぞれに楽しめる奥行きのある深さがある。」という感想は、何よりもうれしかった。先生方のすごいところは、絵本とCD、手引書の内容から、子ども達への具体的な問かけや、それに対する反応をすぐに想像できること。子ども達と英語の絵本を楽しもうとしてくださる姿勢がとてうれしかった。(写真⑤)

ここで『クラスで楽しめる英語絵本セット 初級』の使いたい順ランキングベスト3を発表したい。

No.1 “How Do You Feel? (未邦訳。どんなきもち?)” : 授業のはじめにいつも、“How do you feel?”と子ども達の気持ちを聞くそうで、教科書にはない、様々な“気

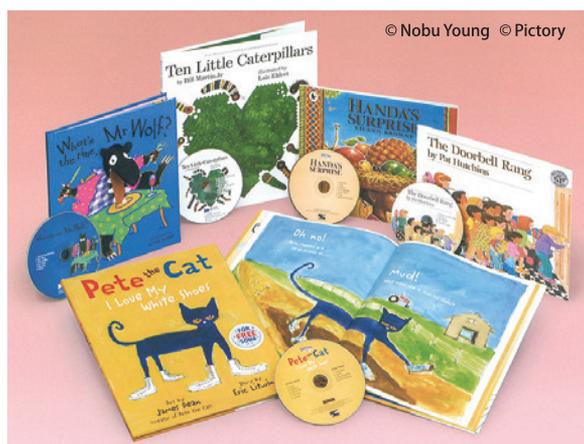
持ち”を表す言葉を絵本から学べるのはとてもよいと評価。国際的な賞を数々受賞している、アンソニー・ブラウンならではの表現力が魅力。

No.2 “Dear Zoo (どうぶつえんの おじさんへ)” : 動物とその動物を表現する形容詞の組み合わせを楽しめる絵本。少し難しい形容詞も含まれているが、「どんな意味かを考えてみよう」という問いかけが出来る。仕掛け絵本であり、同じパターンでの繰り返しで物語が進行するという事が、英語での理解を助けると実感。CDが特によく作られていて、絵本にない部分を音で補ったり、形容詞のところだけわざと消えていて穴埋めするようになっていたり、使い勝手が抜群だ。

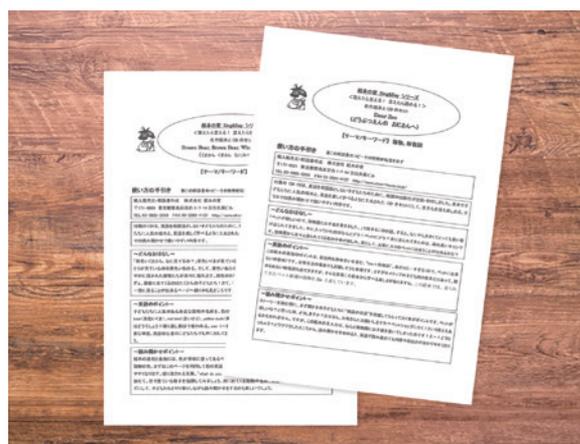
No.3 “Blue Sea (未邦訳。青い海)” : 青く深い海の中を、一匹の小さい魚が泳いでいます。すると、さあ大変!少し大きな魚、もっと大きな魚、一番大きな魚が出てきて追いかけてっこに。小さい魚の運命は?というお話が、1語か2語の単語だけで楽しめるという絵本。形容詞の比較の表現は小学校では扱わないが、絵本としてなら小学校1、2年生からも楽しめるという評価。歌を使った劇に出来ないか?など、先生方ならではのアイデアも。

■ 貴重な交流に感謝

先生方のお話からは現場での子ども達の様子がよくわかり、英語があまり得意ではない場合でも、発音を確かめたり、子ども達に聞かせたりと、CD付なら安心して英語の絵本を使ってもらえることが分かった。また、歌やチャンツで英語を学ぶというのは、子ども達がよく体験している学びの方法なので、抵抗なく楽しめる内容であることも分かって安心した。シリーズすべてをお伝え出来ずに残念だが、それはまたいつか、別の機会に! 



写真⑤: クラスで楽しめる英語絵本セット
数・色・時間を学ぼう



写真⑥: 絵本の家オリジナル 使い方の手引き